

双璧

兵庫県高校総体

①テニス女子団体

全国総体6度Vの伝統



挑戦者として臨む園田の西口真央主将

園田

春に全国の頂点に迫った西雄の、少なくとも一方は夏の全国舞台に立つことすら許されな。全国高校選抜大会準優勝の相生学院と、同3位の園田。テニス女子団体の兵庫代表争いはし烈を極める。

現チームになつてからの直接対決は昨秋の県新人大会のみ。事前の個人戦シングルスでは相生学院が4強を独占していたが、大接戦となった団体戦を制したのは園田だった。「個人では相生学院が上だけど」団体戦

なら」という自信がある」と第1シングルスで勝利した西口真央主将は語る。全国総体6度優勝の伝統に裏付けされた自信が選手たちを支え、奮い立たせる。相生学院の躍進に危機感を募らせつつ、新人大会と同じく、得意のダブルスから主導権を握る展開に勝機を見いだす。新鋭を迎え撃つというおこぼりはない。「挑戦する気持ちで向かっていこう」と必勝を誓い合

う。一方の相生学院は創部3年目。当初はチームとしての未熟さが否めなかったが、各門を追

国内トップ級の激突



初優勝を目指す相生学院の森歩実主将

相生学院

創部早々に選抜準優勝

いながらたくまじきを増した。昨秋の県新人大会の惜敗も精神面のもろさを克服するきっかけとなり、今春の飛躍を生んだ。ただし、全国に名をとどろかせるも、園田の壁は越えていない。「負けても次に頑張れば勝てる」と分かった。園田にも次こそ絶対だ。全国高校選抜大会では、以前に完敗した京都外大西に奮闘し、成長を証明した。手応えが練習の熱気だけでなく、あいさつや返事力強さに表れている。「悔しい思いを

し続けてきたので、気合が入っている」と森歩実主将。宿敵を破つての初優勝に執念を燃やす。(永見将人、今福寛子)

◇

スポーツで兵庫の高校生ナンバーワンを決める県高校総体。今年も各競技で若者たちの意地と意地がぶつかり合う。名門と新鋭の優勝争い、同地区のライバル対決。24日から競技が本格化するのを前に、双璧をなす2強が激しい頂上決戦を繰り広げ、そんな競技にスポットを当て